

第26回 抗議デモ・学習会

5月11日(土)

- 抗議デモ 午後1:30集合 1:50出発 烏山区民センター前広場
- 学習会 午後2:30開会 烏山区民センターホール

講演 カルト問題を大学で教える ーオウム真理教はなぜ蔓延するかー

オウム真理教が地下鉄サリン事件を引き起こしてから18年が経過したが、名称をアレフ・ひかりの輪に変更し、いまだ大きな勢力を保っている。

塚田氏は大学に於いてオウム真理教をはじめ、他のカルト団体について学生に教え伝える、国内でも数少ない先生のみひとりです。カルト団体の実態も含め、宗教社会学の立場から講演していただきます。

オウム
対策
住民
協議
会
ニ
ュ
ー
ス

烏山地域
オウム真理教対策
住民協議会

講師：國學院大学助教 塚田穂高氏

略歴

1980年、長野市生まれ。東京学芸大学教育学部卒。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程（宗教学宗教史学）を単位取得満期退学。財団法人国際宗教研究所宗教情報リサーチセンター研究員などを経て、現在、國學院大学研究開発推進機構日本文化研究所助教。専門は宗教社会学・近現代日本の宗教運動。著書・論文として、『宗教と社会のフロンティアー宗教社会学からみる現代日本ー』（共著、勁草書房、2012年）、『情報時代のオウム真理教』（共著、春秋社、2011年）、「日本社会と「宗教」をめぐる区切りと兆しーオウム裁判終結、「君が代」起立問題、「宗教情報ブーム」のゆくえからー」（『現代宗教2012』所収）、「変貌する「幸福の科学」の今昔ー政治進出までの23年間とその国家観ー」（『世界』2009年9月号所収）など。

主催：烏山地域オウム真理教対策住民協議会

後援：世田谷区

第7回

リサイクルバザー

掘り出し物
いっぱい

4月13日(土) 10時 烏山区民センター前広場(雨天決行)

12年間活動を続けてきた
住民協議会にご協力
をお願いします。

“今年もリサイクルバザーを行います”

今年で7回目となりました、住民協議会主催のリサイクルバザーです。住民協議会活動の活動資金を得るためのバザーです。皆さまのご協力をお待ちしております。

日用雑貨・アクセサリ・乾物類・おもちゃ・陶器類・ハンドバック・シーツ・タオル・婦人服・紳士服・子ども服・靴類など

集会「地下鉄サリン事件から18年」に参加して 投稿

3月17日烏山区民センター集会室で、地下鉄サリン事件から18年の、パネルディスカッションが行なわれた。この集会是1995年に地下鉄サリン事件が起きた3月20日を前に毎年開催されてきたが、今回初めて烏山で行われた。定員100名の集会室がほぼ満席となり、18年経過した今でも関心の高さをうかがわせた。

地下鉄サリン事件被害者対策弁護団事務局長、中村裕二弁護士の司会で進行され、パネリストとしてオウム真理教被害対策弁護団事務局長 小野毅弁護士、元富士ヶ嶺オウム真理教対策委員会副委員長 竹内精一氏、日本脱カルト協会理事 滝本太郎弁護士、オウム真理教犯罪被害者支援機構代表 宇都宮健児弁護士、地下鉄サリン事件被害者の会代表 高橋シズエ氏の6氏がオウム真理教事件の18年の想いを語った。被害対策弁護団の団長をしていた坂本弁護士をよく知る小野氏は、オウム真理教の実態が社会的に明らかになる前の1990年には、自ら「狂気の宗教」という本を出版し、オウム真理教の危険性を暴露していた。竹内氏は1989年に上九一色村（現富士河口湖町）に進出したオウム真理教との関いの経験を語った。信者の拡大に伴い、大阪釜ヶ崎から入信の意志のない人を連れてきて、日当を出し修行を強要、耐えきれない信者が竹内家に逃げ込んだ。竹内氏は「オウム真理教は

存在をしてはいけない集団」とであると強い口調で語った。自らもサリンを散布された経験も持つ滝本氏は、暗黒の独房に80日間閉じ込められた信者、同じ言葉を何万回と言わせ、最後には現実感を無くす信者、脱会したら無間地獄に落ちるのでやめられないなど、修行の実態を語った。宇都宮氏は坂本弁護士の妻都子さんが彼の事務所に勤務していたこともあり、坂本弁護士一家殺害への強い思いを語った。殺害現場に落ちていたオウム真理教のブルシャ（バッチ）、信者の上祐・青山等が、事件後事務所に訪ねてきたことなども含め、オウム真理教の仕業と早くから見破っていた。しかも、一歳二ヶ月の子どもを手にかへ、弁護士をも殺害するとは法治国家では最悪と断じた。営団地下鉄霞ヶ関駅助役の夫をサリンで亡くした高橋シズエ氏は、裁判の傍聴にきていた坂本弁護士夫人の父親大山氏より「力が足りずすみませんでした」と言葉を掛けられた。事件の時もつと警察に強く言って捜査をきちんとさせればこんなことは（地下鉄サリン事件）起きなかったと言われ、被害者同志の思いやりを感じたと語る。地下鉄サリン事件の実行犯信者の家族からも、高橋氏に対して重く切ない自責の言葉がかけられたと話す。最後に集会アピールを採択し閉会したが、オウム真理教事件をいつまでも語り、知らせる重要性を強く感じる集会であった。

パンフ「こんな勧誘にご用心」世田谷区内10大学に配布

3月8日、烏山地域オウム真理教対策住民協議会では、世田谷区内10大学にパンフレット「こんな勧誘にご用心」12,400部を届けました。

これは新入生にカルトの勧誘の手口を知ってもらうためのもので、住民協議会では平成16年より毎年、世田谷区内の大学の意向を聞きながら行っています。オウム真理教、統一教会、摂理などカルト教団は、近年、社会経験の未熟な大学生をターゲットに、言葉巧みに教団に誘い込み、その結果多くの被害が報告されています。住民協議会では、パンフレットを読んでもらい、カルトへの知識を持ち、被害が減少することを願っています。今年パンフレットを配布していただける大学は以下の通りです。

東京医療保健大学、国士館大学、駒澤大学、昭和女子大学、多摩美術大学、日本女子体育大学、日本大学商学部、日本大学文理学部、東京都市大学、成城大学（順不同）

こんな勧誘に
ご用心!



パンフ「こんな勧誘にご用心」

住民協議会活動報告

3月17日(日) 「地下鉄サリン事件から18年」に参加
3月18日(月) オウム対策住民協議会
3月21日(木) 第7回リサイクルバザー物品受付
3月25日(月) 協議会ニュース124号初校正
3月26日(火) 第7回リサイクルバザー物品受付

3月29日(金) 第7回リサイクルバザー物品受付
4月1日(月) 協議会ニュース124号再校正
4月4日(木) 第7回リサイクルバザー物品受付
4月6日(土) 芦花公園花の丘フェスタで募金活動
4月8日(月) 事務局会議
4月8日(月) 協議会ニュース124号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。